

第3回 4/20

「キー局の編成・制作という仕事」

片山 剛(かたやま・つよし)先生

株式会社TBSテレビ 制作局バラエティ制作部部次長
産業社会学部OB

TBSテレビ制作局バラエティ制作所属。(2012年4月1日付)

テレビ番組のプロデューサー及びディレクターを担当。

主な担当番組

- … 音楽番組 「輝く！日本レコード大賞」
「日本有線大賞」
- … バラエティ 「アッコにおまかせ！」「A-Studio」
「DOORS」「未来日記」
- … ドラマ 「和田アキ子殺人事件」「魔王」

立命館大学産業社会学部 卒業



《講義概要》

産業社会学部の卒業生であり、株式会社TBSテレビの制作局バラエティ制作部部次長として数々のテレビ番組の編成・制作に携わる片山剛氏が、キー局の編成・制作の実態についての講義を行った。

講義ではまず、「番組制作」について裏話などを織り交ぜながら分かりやすく説明。制作に関わるプロデューサーやディレクターの仕事内容、番組が生み出されるまでの仕組み、さらには現場の実情などを詳しく示し、番組制作の奥の深さやその魅力を伝えた。また、どのような番組を放送するのか企画・提案し、決定を行う「番組編成」についても具体的に解説し、編成にとって重要な視聴率の仕組みやマーケティングについて説明した。

さらに、ネットの発達や多チャンネル化、広告収入の減少等テレビを取り巻く環境が変化し、厳しい現状にある一方、そこにある可能性についても言及し、今後は「コンテンツビジネス」の展開が重要なポイントとなることを提示した。激動の中にあっても時代の流れに柔軟に対応し、新たなビジネスモデルを構築することで可能性を見出すことができることを訴えた。最後には、卒業生として就職活動のアドバイスを伝え、学生にエールを送った。

《受講生の感想》

プロデューサーとディレクターの違いのお話しから、私たちが普段関わることのない現場の情報まで聞くことができ、また、不景気やネットの台頭による今日、今後のテレビ業界のあり方も知ることができた。特に印象に残ったのは、今日のテレビを取り巻く環境と今後のあり方であり、重要なのは新しいコンテンツビジネスということである。イベント事業や映画、モバイルなどと上手く付き合っていくことが大切だと感じました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

1つの番組を作るのにプロデューサー、ディレクターのほか、予算や演出、収録など多くの人々によってたくさんのお金、時間をかけて作っていることを知り、大変驚きました。今のテレビを取り巻く環境の変化に合わせて制作側は視聴者のニーズに合わせて様々な事業を広げていかなければならないと分かりました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

一番印象的だったのは、震災中の番組編成の話でした。テレビは情報を伝えるだけでなく、見る人の心情に大きな影響を与えるものなのだと感じました。番組を編成する方々は見る人が何を求めているのかを考えて放送しなければならないので本当に難しい仕事だと思いました。

立命館大学・映像学部・3回生

コンテンツビジネスに力を入れたり、動画サイトなどのビジネス展開について知り、取り巻く環境をどう利用し、自身の特徴に注目したビジネス戦略だと思いました。また、日本の番組のフォーマットを海外に売るというビジネスは知らなかったので、効率の良い方法であると感じました。

立命館大学・映像学部・2回生

私はテレビやラジオなどの放送業界を目指しているので、普段は聞けないような現場の状況や視聴率などの編成の戦略を聞いて興味深かったです。就職のこともお話ししさせて、学生のうちにすべきことなどとても勉強になりました。片山先生のおっしゃったような「人間力」を磨けるようにしていきたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

テレビ番組は世の中の流れを汲み取らなければならず、かつ社会への影響力がとても大きいので、番組編成には鋭いアンテナが必要だと感じました。無料でドラマが配信されるなど著作権侵害の問題で放送局は対応が大変だと思いました。規制しきれない違法サイトとどう上手くやっていくのかが大きな課題だと思いました。

立命館大学・法学部・4回生

